

# マラウイの 化学肥料補助金政策 の実態

原島 梓

## はじめに

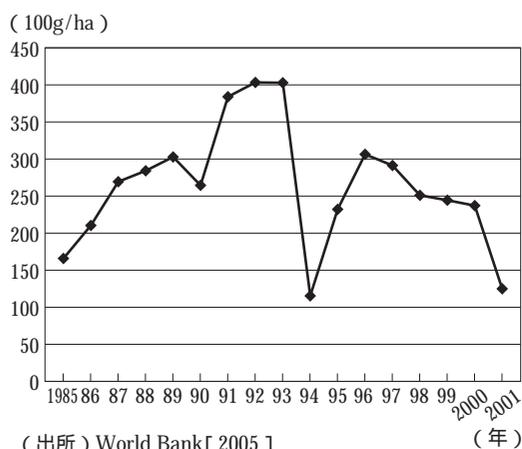
マラウイの化学肥料使用量は、1980年代後半から90年代前半にかけて増加傾向にあった。しかし94年以降、低迷している(図1)。これは肥料価格の高騰により肥料購入量が低下し、使用量の低下を招いたためと言われている。肥料価格高騰の

要因としては、肥料に対する補助金支給の打ち切りと、為替レートの切り上げの2点が挙げられる(Harrigan[2003])。

マラウイでは、化学肥料の購入価格を下げるために補助金が支給されていたが、構造調整政策により、1985年以降、徐々に補助金の支給率が引き下げられ、95年には全廃された(Grough et al.[2002])。また構造調整により通貨(クワッチャ、以下、K)が切り下げられたことで、化学肥料を全量輸入している同国では、肥料価格が高騰してしまった(Grough et al.[2002])。

政府は、化学肥料の使用量の低迷が、主食であるメイズの生産性の低下を招き、さらにはそれが食糧危機につながることを危惧し、1998年から2004年にかけて投入物配布政策(Starter Pack Program)ならびに対象者を絞った投入物配布政策(Targeted Input Program)を実施し、小農に対し無料で5~15キログラム程度の肥料を配布した。これらの政策の目的は、化学肥料使用量の向上によるメイズの増産と、貧困撲滅にあった。両プロ

図1 化学肥料使用量(ヘクタール当たり)



グラムの対象者数は毎年異なるが、各年100万人から300万人ほどが対象になっていた。2004年にこれらの政策は打ち切られたが、2005年には新たに化学肥料補助金政策が実施された。2005年の政策の目的は、化学肥料の購入価格を引き下げ、小農の肥料使用量を伸ばすことであった。

本稿では、この2005年の補助金政策に着目し、まず政策の概要を整理した上で、4カ村での筆者の聞き取り調査をもとに、各村における化学肥料の購入状況を明らかにする。その上で、この政策の恩恵を受けることができた農家の特徴を検討し、政策の目的を達成することができたか否かを考察する。

## 1. 2005年の補助金政策の概要

2005年に実施された化学肥料補助金政策では、国内の農家の60%<sup>†1</sup>ほどにあたる200万世帯に、化学肥料を安価で購入できる引換券が配布された。この政策は、スウェーデン政府、アイルランド政府が財政的なサポートを行っていた(UN[2006a])

引換券は行政組織を通じて各村の村長(Village Headman)に配布された。配布方法は各村に一任されていた。引換券を受け取った世帯は、近隣の農業開発流通公社(ADMARC)の支店において、1枚の券と引き換えに、50キログラム入りの化学肥料の袋一つを、通常の3分の1から2分の1の価格で購入することができた。

引換券を利用して購入できる化学肥料は、表1

表1 化学肥料の種類と価格、主な用途

肥料名	価格 (引換券あり)	通常価格	主な用途
23:21:0+4S	950K	約3,000K	メイズ(基肥)
UREA	950K	約2,500K	メイズ(追肥)
CAN	1,400K	約3,200K	タバコ(基肥)
D compound	1,400K	約2,500K	タバコ(追肥)

(出所) UN[2006a]; 聞き取り調査から筆者作成。

に明記した4種類である。これらの肥料はマラウイで頻繁に利用されているものであり、引換券を保持する者は、このうちどれでも購入することができた。これらの肥料の通常価格<sup>†2</sup>は2500Kから3200Kである。しかし引換券を保持する者は、23:21:0+4SとUREAを各1袋950Kで、CANとD compoundを各1袋1400Kで購入することができた。

## 2. 各調査村の状況

次に、各調査村における引換券受取状況ならびに肥料の購入状況をみていきたい。今回筆者が聞き取り調査を実施した村は、マラウイ中部のムチンジ県カチャンバ村、同じく中部のデツツア県カフトコザ村、シトロ村、ロビ村の計4カ村である。いずれも2006年9月に聞き取り調査を行った。

### (1) カチャンバ村

カチャンバ村では総世帯数28に対し、引換券は20枚割り当てられた。引換券の転売を避けるために、同村では、肥料購入資金(950Kあるいは1400K)を村長に提示した人のみが引換券を手

†1 2005年の国内の全農家数は不明だが、2002年の農家数は327万世帯であるため(National Statistical Office[2004])、ここでは全農家数を327万世帯として計算している。

†2 通常価格については、筆者が2006年9月にマラウイで41世帯を対象に調査を行った際に聞き取った価格を平均した。



表2 カチャンバ村における引換券受取枚数，使用枚数，通常価格での肥料購入数

(単位：引換券は枚数，購入数は袋)

引換券受取枚数	引換券使用枚数	通常価格での購入数(平均)	該当世帯数
2	2	3.5	2世帯
2	1	3	2世帯
2	0	2	4世帯
1	1	2	1世帯
0	0	0	2世帯
世帯数合計			11世帯

(出所)聞き取り調査から筆者作成。

入れることができるとされた。受け取れる引換券の数は、各世帯とも最大で2枚であった。この配布に関しては、世帯の経済状況などは一切考慮されず、資金を準備できた者は全員受け取ることができた。

筆者は同村で11世帯に聞き取り調査を実施した。表2は、同村の引換券受取枚数と使用枚数、ならびに通常価格での購入数をまとめたものである。ここでの大きな問題は、同村近隣にある農業開発流通公社の肥料入荷量が引換券の枚数に見合っておらず、引換券を持参しても、肥料がなく購入できなかった世帯が多数存在した点にある。引換券を2枚受け取っていた8世帯のうち、肥料を2袋購入することができた世帯は2世帯のみであった。肥料不足で農業開発流通公社から購入できなかった世帯は、民間業者から通常価格で購入している。

Ziggy Kondwani Magombo[2006]によれば、農業開発流通公社に適切な量の肥料が届かなかったのは同村近隣だけでなく、他の地域でも同様のことが起きており、これは流通過程で何者かが肥料を大量に買い占めてしまったからだと言う。

またもう一つの問題としては、同村では2世帯が、肥料購入資金を用意できず、肥料をまったく購入できなかった点にある。そのため、これらの世帯では、翌年の収穫量が激減すると予想される。

### (2) カフトコザ村

カフトコザ村では4世帯に聞き取り調査を行い、その結果を表3にまとめた。同村でもカチャンバ村と同様に、肥料購入資金を準備できた人のみが、1世帯最大で2枚の引換券を手に入れることができた。

農家Aは、経営耕地面積が12エーカーの大規模な農家である。農家Aは、2枚の引換券を受け取り、それ以外にも10枚の引換券を親戚から無料でもらったために、合計12枚の引換券を利用し、肥料を購入した。農家Cは1袋分の資金しか用意できなかったために、1枚だけ引換券を受け取り、購入している。農家Dは資金が準備できなかったために引換券を受け取れず、通常価格でも購入できなかった。同村で聞き取りを実施した4世帯は、いずれも民間業者から通常価格で肥料を購入してはいなかった。

### (3) シトロ村

シトロ村では4世帯に聞き取り調査を行った(表3)。同村では、タバコ生産農家に最大で3枚、タバコを生産していない世帯には最大で2枚の引換券が配布されている。同村における配布方法は前述の2村と同様であり、購入資金を準備できた人のみが引換券を受け取ることができた。

農家Aは、タバコを生産しているために引換券

表3 カフトコザ村, シトロ村, ロピ村における引換券受取枚数, 使用枚数, 通常価格での肥料購入数, 経営耕地面積

(単位: 引換券は枚数, 購入数は袋, 経営耕地面積はエーカー)

	農家名	引換券 受取枚数	引換券 使用枚数	通常価格 での購入数	経営 耕地面積	備考
カフト コザ村	農家A	2	12	0	12	10枚は親戚から無料でもらう
	農家B	2	2	0	5	資金不足で1枚しか購入できず 資金不足で購入できず
	農家C	1	1	0	2	
	農家D	0	0	0	2	
シトロ村	農家A	3	3	3	4	タバコ生産世帯のため3枚もらう
	農家B	2	1	0	7	肥料不足で購入できず
	農家C	1	1	0	2	資金不足で1枚しか購入できず
	農家D	0	0	0	4	資金不足で購入できず
ロピ村	農家A	0	50	0	17	1枚150~200Kで購入
	農家B	0	16	0	5	1枚300Kで購入

(出所) 聞き取り調査から筆者作成。

を3枚受け取ることができ、肥料3袋を購入した。農家Aはそれ以外にも民間業者から肥料を3袋購入していた。農家Bは引換券を2枚受け取ったものの、カチャンバ村と同様に、農業開発流通公社の肥料入荷量が十分でなかったために、肥料を1袋しか購入できなかった。農家Cは資金不足のため1枚のみ引換券を受け取り1袋購入している。農家Dは資金不足のため引換券を受け取れず、肥料をまったく購入できなかった。

#### (4) ロピ村

ロピ村では2世帯に聞き取り調査を行った(表3)。農家Aは17エーカーの経営耕地面積を持つ大規模な農家であり、農家Bも5エーカーの経営耕地面積を持つ比較的大規模な農家である。農家A, Bはいずれも引換券を受け取ってはならず、その理由を尋ねたところ、いずれも引換券を欲しかったが村長からはもらえなかったと答えた。

農家Aは引換券1枚につき150Kから200Kで、同村あるいは近隣村の引換券保持者から引換券を購入し、合計50枚の引換券を利用して肥料を購入した。引換券を持っている場合、1袋につき通

常価格より少なくとも1000K安く肥料を購入することができる。引換券購入価格を200Kと仮定しても、農家Aは少なくとも、4万K分の肥料購入費が浮いたことになる。一方、農家Bは、1枚300Kで近隣住民から計16枚入手している。これにより少なくとも1万1200K分得をしている計算になる。これら二つの農家は、化学肥料の必要量をすべて引換券を利用して購入したため、民間業者からは肥料をまったく購入しなかった。

### 3. どのような農家が恩恵を受けたのか

次に、この政策によってどのような農家が恩恵を受けることができたのか考えてみたい。

聞き取り調査の結果をみる限り、この政策によって恩恵を受けた農家は、なんらかの形で引換券を入手し、それを利用して肥料を購入できた世帯だと言えるだろう。引換券を利用して肥料を購入するためには少なくとも事前に950Kあるいは1400Kの資金を準備しなければならず、こうした資金を準備できる農家のみが政策の恩恵を受けていた。特に引換券を他の人から購入あるいは譲り



受け、より多くの引換券を利用することができた世帯が、最も大きな恩恵を被っている。ロビ村の農家A、Bは、村長からの引換券配布時には受け取ってはならず、同村では、引換券は富裕層には配布しないという方針が存在したのではないかと考えられる。しかしながら結果的に、この引換券方式により、富裕層が最も大きな恩恵を得られたと言えるだろう。

引換券を入手し、それを他者に転売した世帯も、少額ではあるが恩恵を受けている。しかし前述のカチャンバ村・カフトコザ村・シトロ村では、引換券を入手するためには少なくとも950Kの資金を準備し、それを村長に提示しなければならず、転売目的で引換券を入手することは困難であった。また、転売する際の価格については、本来であれば1枚当たり少なくとも1000Kの価値があるものの、実際に売買された価格は150Kから300Kと、非常に安価で取引されており、転売で得られた恩恵はわずかであったと言えるだろう。

もう一つ今回の調査によって明らかになったのは、この政策の恩恵をまったく受けられなかった農家が2種類存在することである。一つ目は、たとえ引換券を入手しても、カチャンバ村のように、引換券で購入できる肥料が不足したため購入できなかった農家である。こうした地域では引換券を転売することもできず、農家は政策によってなんら恩恵を受けられなかった。二つ目は、950Kの資金を用意できず、引換券を入手することすらできなかった貧困農家である。これらの農家は、もちろん通常価格で化学肥料を購入することもできず、肥料をまったく投下できなかった。

## おわりに

この政策の目的は、化学肥料の購入価格を引き

下げ小農の肥料使用量を伸ばすことであった。2004年の各世帯の肥料購入量を調査していないため、「使用量を伸ばす」という目的が達成できたか否かは厳密にはわからないが、価格の低下によって小農が肥料を購入しやすくなったことは間違いないだろう。ただし、この政策の恩恵を受けられた世帯は、少なくとも950Kの資金を準備することができた比較的豊かな小農に限られており、その資金を準備できなかった貧困世帯はまったく恩恵を受けられていない。

マラウイ政府は、2006年も同様の政策を150万人を対象に実施すると発表している(UN[2006b])。現在のところ詳細は発表されていないが、今後注視していきたい。

### 【参考文献】

- Grough, Amy E., H. Christina Gladwin and Hildebrand Peter E. [2002] "Vouchers versus Grants of Inputs: Evidence from Malawi's Starter Pack Program," *African Studies Quarterly*, The Online Journal for African Studies.
- Harrigan, Jane [2003] "U-Turns and Full Circles: Two Decades of Agricultural Reform in Malawi 1981-2000," *World Development*, Vol.31, No.5, May.
- National Statistical Office [2004] *Statistical Yearbook 2004*, Zomba.
- UN Disaster Management Technical Working Group [2006a] "UN Malawi Humanitarian Situation Report 15 February 2006," No.14, UNDP.
- [2006b] "UN Malawi Humanitarian Situation Report 6 October 2006," No.19, UNDP.
- World Bank [2005] *World Development Indicators 2005*.
- Ziggy Kondwani Magombo [2006] "Malawi's Subsidised Fertilizer Smuggled and Embezzled," *Afrol News*, 7 February. (<http://www.afrol.com/articles/17989> 2006年11月閲覧)

(はらしま・あずさ/アジア経済研究所地域研究センター)